

 (東証スタンダード市場：6848)

**2022年度 1Q
(2023年3月期 第1四半期)
決算補足説明資料**

東亜ディーケーケー株式会社

2022年7月

■売上高：部材調達難の影響を強く受け減収

（国内）官公需は例年並み、民需は設備投資が回復し受注好調で増収

（海外）主に中国・上海市ロックダウンによる現地生産一時停止で減収

■利益：減収・原価率上昇・販管費増加により減益

（単位:百万円）

	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年同期比増減	
			金額	率
売上高	3,325	3,262	△62	△1.9%
営業利益 売上高比	206 6.2%	99 3.0%	△106	△51.8%
経常利益 売上高比	219 6.6%	92 2.8%	△127	△57.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益 売上高比	138 4.2%	67 2.1%	△71	△51.5%

計測機器事業（減収減益）

売上高3,201百万円（1.8%減）、セグメント利益289百万円（17.3%減）

- 国内売上高：部材調達難の影響あるも増収を確保
 - ① 環境・プロセス分析機器：官公庁向けは例年並み。民間企業向けは設備投資回復により受注が好調で増収。
 - ② 科学分析機器及び医療関連機器：受注は好調も部材調達難による納期延伸で減収
 - ③ 電極・標準液、保守・修理及び部品・その他：
コロナ禍でも設備稼働維持のための保守点検が計画通り行われ増収
- 海外売上高：主に中国・上海市ロックダウンによる現地生産一時停止の影響で減収
- 利益：部材価格高騰や円安による原価率の上昇、販売促進費・研究開発費の増加で減益

不動産賃貸事業（減収減益）

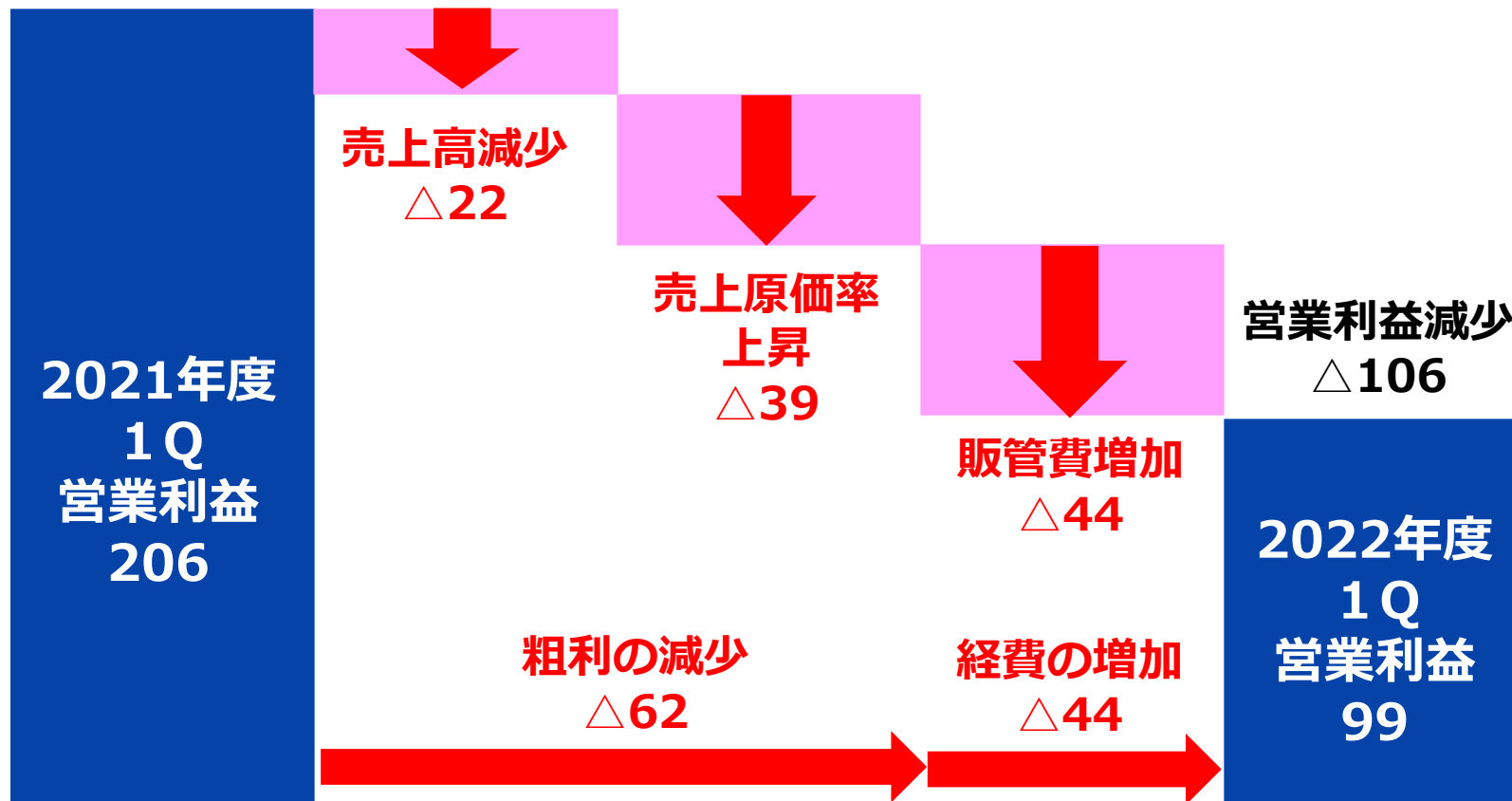
売上高60百万円（5.7%減）、セグメント利益36百万円（11.2%減）

- 主な賃貸物件は、本社に隣接しているビル1棟と駐車場

営業利益の増減分析

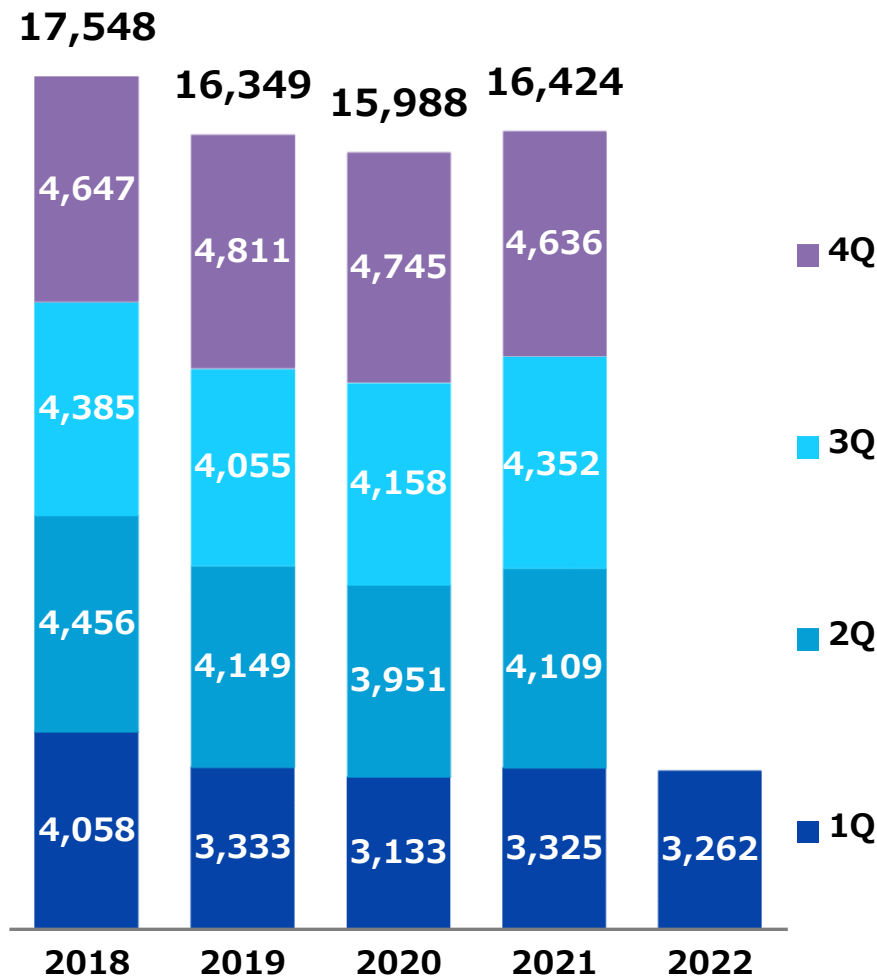


(単位:百万円)

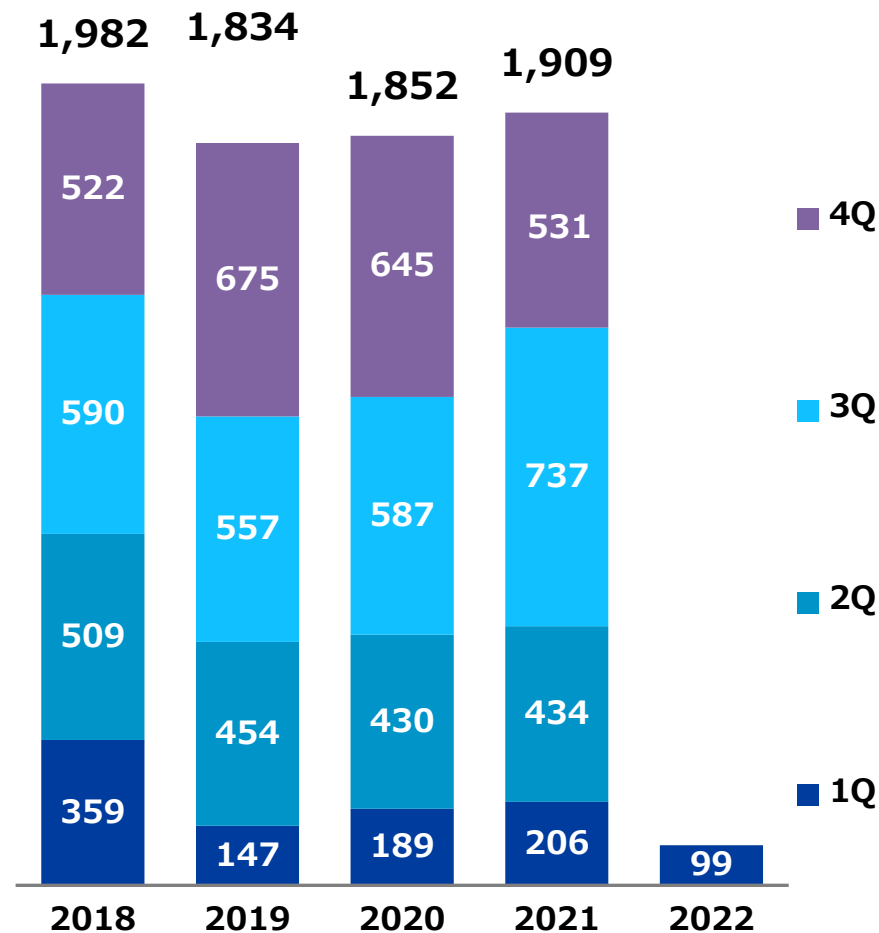


(単位:百万円)

売上高

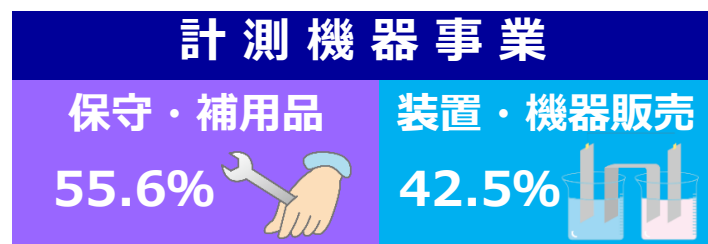
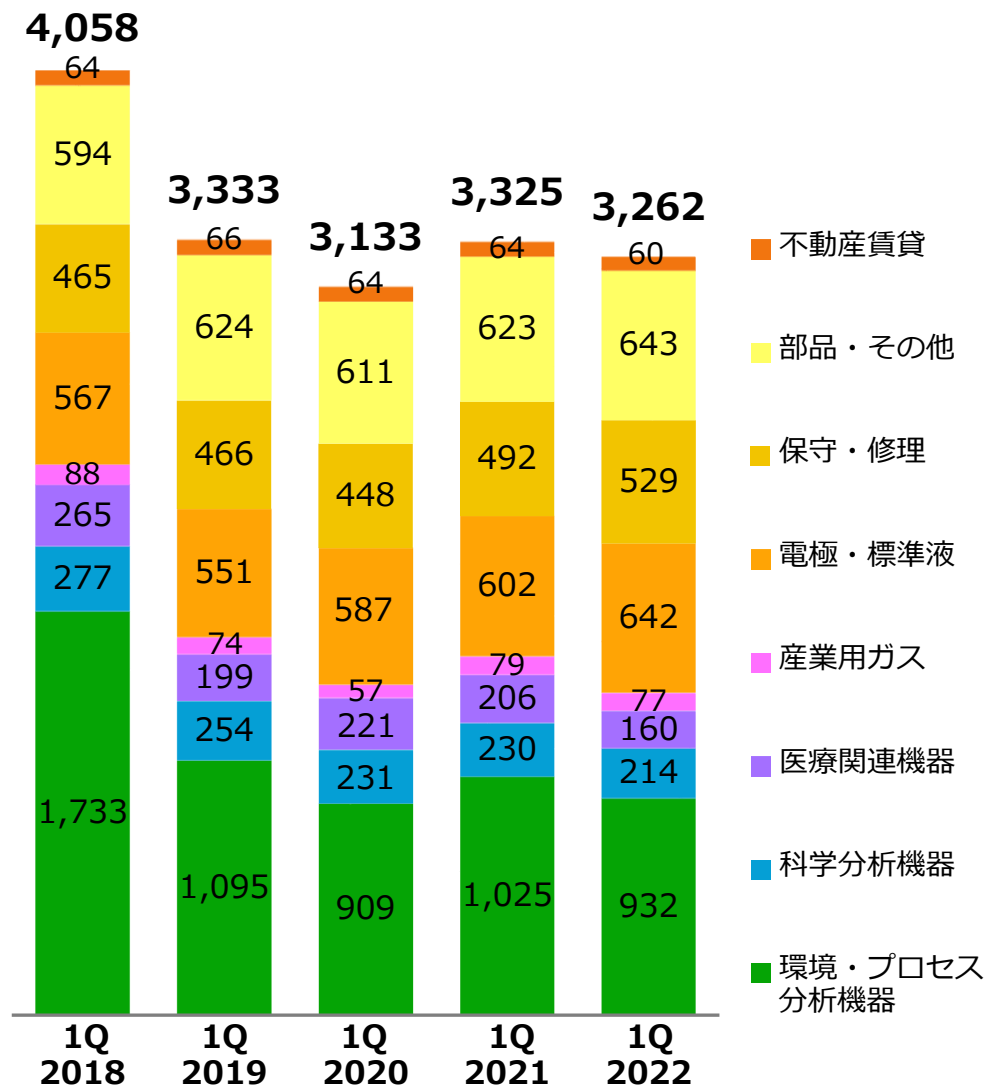
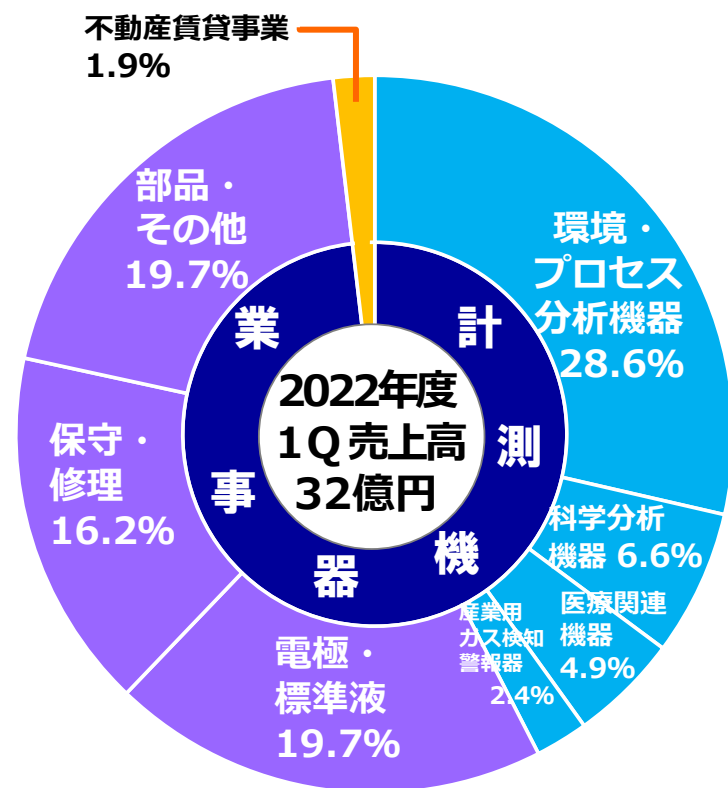


営業利益



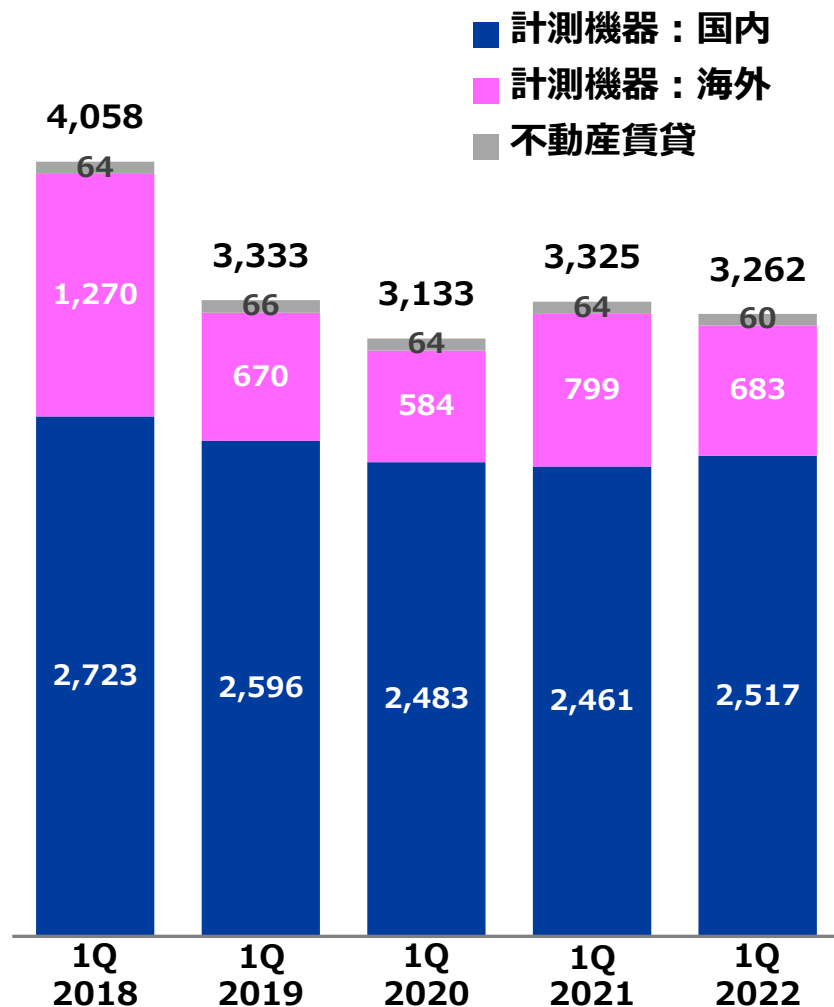
分野別構成比と売上高推移

(単位:百万円)

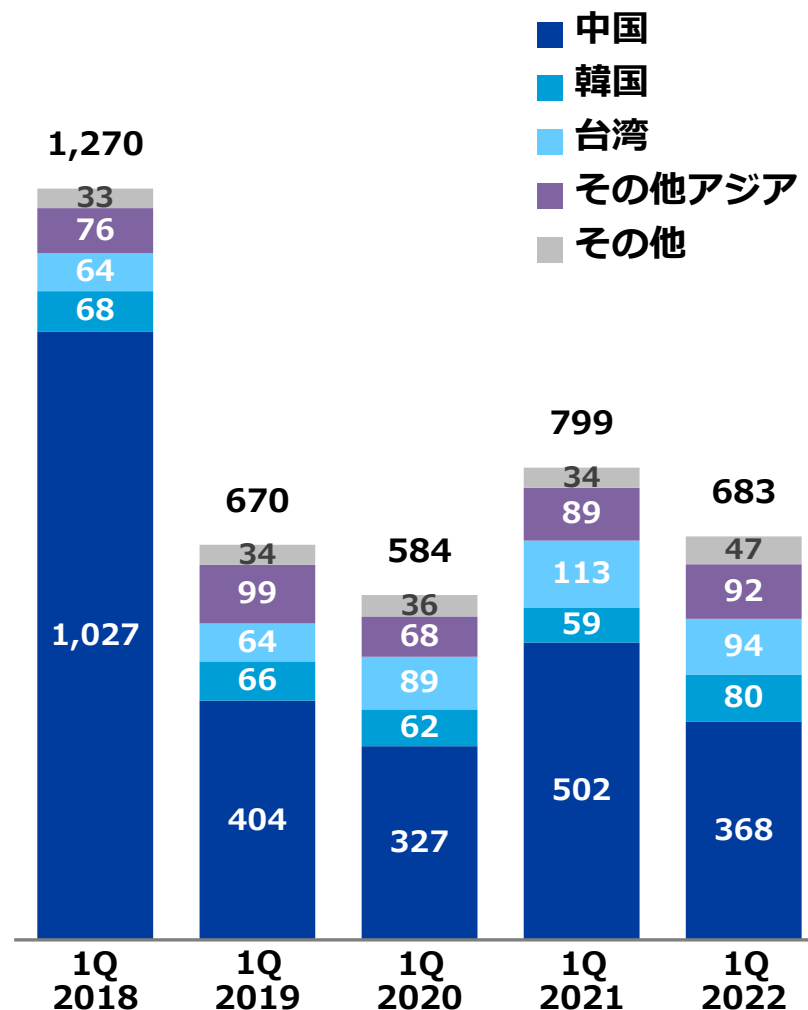


(単位:百万円)

国内外の売上高



海外の国別売上高



- 本資料は当社をご理解いただくために作成したものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 本説明資料中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しておりますので、表中の内訳と合計が一致しない場合があります。
また、諸比率は円単位で算出の上、小数点第2位を四捨五入しておりますので、合計が100.0%とならない場合があります。
- 将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上でご利用ください。
- 業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
- 本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、皆さまご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

＜お問い合わせ＞

東亜ディーケーケー株式会社
経営戦略部 経営企画課

メール：ir@toadkk.co.jp

URL：https://www.toadkk.co.jp/